

平成29年度 在宅医療・地域包括ケアの推進に係る保健福祉事務所事業実施状況（研修・講演会）

事務所	区分	テーマ等	参加者数	成果等	今後の課題	平成30年度実施予定 研修・講演会・出前講座 開催回数	今後取組む必要がある 事業
平塚	-	-	-	-	-	-	-
厚木	研修	高齢者施設における「看取り」のために～最期までその人らしい「生きる」を支える～ 高齢者福祉施設における看取り調査結果報告 実践報告（管内の特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホーム） グループワーク	45名	先進的に取り組む施設の話を知ること、自施設での取り組みの参考になった。また、グループワークを通じて、看取りに対する意見・情報交換ができた。	施設同士の交流研修等を通じて、高齢者施設での看取り介護の質の向上を図ること	研修を開催（開催回数は今後検討）	
鎌倉	講演会	地域包括ケア講演会「自分らしくシルバーライフを生きる」 講師 暮らしの保健室室長 秋山正子氏	90名	地域包括ケアの実際を理解する機会となった。事例を通じた講話は、参加者自身が在宅療養を自分自身のこととして考えることにつながった。	参加者から、管内における地域包括ケアの実際を知りたいという意見をいただいた。今後は、当地域での取組み紹介も併せた企画ができないか検討する必要がある。	○研修会 1回 ○普及啓発 1回	○相談拠点事業実施後の課題に対応した研修会 ○看取りをテーマにした普及啓発及び地域の取組み紹介
小田原	研修	講演 演題「新城市における地域包括ケアモデル事業の取組～悪戦苦闘の日々を過ごして～」 講師 愛知県新城市福祉介護課地域包括ケア推進室 職員	49名	医療・介護従事者や行政担当者の今後の取組への参考となった。	市町単独での取組が困難な分野での実施。	研修会 1回	研修・講演会等
	講演会	講演 演題「写真が語る、いのちのバトンリレー～地域で考えるあたたかな看取り～」 講師 写真家、フォトジャーナリスト 國森 康弘氏	64名	地域住民等へ在宅での看取りについての理解を深めることができた。	地域に浸透させていく継続的な取組。	講演会 1回	研修・講演会等
三崎	研修					三浦市が主体となって実施する在宅医療ミーティング（年3回）を支援	地域包括支援センター等における人材育成を目的とした研修会の開催
	講演会					三浦市が主体となって実施している住民への普及啓発を目的とした講演会（年1回）を支援	
足柄上	研修	「安心して住み慣れた我が家で最期まで」を支えたい！～永源寺の地域まるごとケアの活動から～ 対象者：医療・介護の関係職種、行政担当職員、地域で活躍する福祉関係者	67名	看取りや地域づくりに取り組むためのヒントや必要性についての共通理解が得られ、個々の意識改革につながった。	市町や関係機関のみならず、住民自らも取り組む地域ぐるみの体制作りへの支援が必要。	専門職と一般住民どちらも対象とした講演会を足柄上地区会場で1回。	在宅医療・介護連携推進に向けた研修や普及啓発は、市町で取組みが進んでいるため、保健福祉事務所・センターでは、市町単独での取組みが困難な分野や広域性・専門性が必要な分野に関する取組みへの支援。

事務所	区分	テーマ等	参加者数	成果等	今後の課題	平成30年度実施予定 研修・講演会・出前講座 開催回数	今後取組む必要がある 事業
秦野	研修	「在宅歯科診療の取組」「健康がート薬局の役割と多職種連携」 対象：医療関係職員、介護関係職員及び行政職員	75名	多職種のグループワークにより、顔の見える関係づくりができた。今後の在宅医療に関し、各々ができる事について意見交換する機会となった。H29年度開催した研修会および講演会は全て管内2市との共催で行い、その運営を通して日頃から市との連携強化が図れた。	管内6医療機関の横の繋がりを強化、医療と介護の連携を強化するための場の提供。	医療と介護連携のための研修会4回	「人生の最終段階における医療」についての十分な情報提供および環境が整っていないため普及啓発が必要。 入院医療機関と介護の連携を強化するための意見交換の場が必要。
	研修	「最期まで目一杯生きる」 対象：医療関係職員、介護関係職員及び行政職員	101名	複数の在宅での看取り事例を通し、患者目線で自分らしく生ききる事の意味を学べた。その上で、看取りにおける医療・介護の在り方について深く考える機会を持てた。			
	研修	「緩和医療、緩和ケア病棟の紹介」 「終末期を迎える利用者（患者）への支援について」 対象：医療関係職員、介護関係職員及び行政職員	50名	多職種のグループワークにより、顔の見える関係づくりができた。看取りについて各職種、立場での取組や現状、課題について共有することができた。			
	研修	「aging in place『地域で暮らし続ける』を実現するために～在宅移行支援、病院と在宅支援チームとの連携・協働について学ぶ～」【昼の部・夜の部】 対象： 管内医療機関の看護師等、ケア協会の、地域包括、行政職員 医療関係職員、介護関係職員及び行政職員	未集計	管内の6医療機関の地域連携室、ワカ、看護部でグループを作り、各病院での退院調整の現状および課題について共有できた。退院調整がより良く生きるための重要な支援になることを学べた。管内の医療機関と介護連携がより強化されるための良いスタートがきれた。			
	講演会	「あなたがどう生きどう死ぬか～お迎えされて人は逝く～」 対象：秦野市民、伊勢原市民、医療関係職員、介護関係職員及び行政職員	122名	最期をどう迎えるか、考える機会ができた。多くの参加者が、人生の最期を自ら考え選択する事の重要性を認識された。	講演会の共催等、管内市との連携強化。	普及啓発のための講演会：2回	
	講演会	「家に帰ろう～在宅緩和ケア医が見た旅立つ命の軌跡～」 対象：秦野市民、伊勢原市民、医療関係職員、介護関係職員及び行政職員	H30.3.29 予定				
大和	研修会	講義「介護保険制度と居宅療養管理指導について」講師：県高齢福祉課在宅サービスグループ 江藤副主幹、辻主事 講義「居宅療養管理指導を活用した好事例～薬剤師の事例から～」講師：大和綾瀬薬剤師会 永田智子氏(メディスンショップ西口駅前薬局)	57名	薬剤師の訪問事例が、在宅医療や介護保険制度の理解等の一歩となった。	今後の取組みについては、市へのヒアリングや所内での打合せ等をもって検討していきたい。	認知症対策に関する体制整備の促進。	